

議会だより

2018年7月17日発行
(平成30年)

Vol.139

山形県白鷹町議会
6月定例会

しろたか

***議会の録画中継を配信中！
町のホームページから***

「宿題終わったよ!」

放課後児童クラブ 鮎っ子クラブ

10頁に関連記事

町が抱える課題の解消を	2 p
企業施設拡充 町有地売却予定 補正予算審議	4 p
ここが聞きたい 一般質問・議員が町政を問う	6 p
発掘! 町のビュースポット	12 p
追跡あの事業は今 伝統工芸の村	14 p
シリーズ まちのドクター先生!	16 p

町から県に要望書を提出



白鷹町の未来を照らす

長井～白鷹間 西廻り幹線道路の早期着工を

高速道路へのアクセス向上で、地域格差の解消を願う

国道287号長井南バイパスが開通したが、そこから伸びる、長井～白鷹間の西廻り幹線道路の整備は、いまだ計画の見通しも立っていない。



長井市 泉



白鷹町 鮎貝

人・物の流れを改善

- 公立置賜総合病院へ救急搬送の時間短縮
- 通勤・通学時間の短縮
- 本町から高速道路への接続向上
- 新潟～宮城間の動脈ルート
- 村山地域の交通に支障が生じた場合の補完機能



来年度から10年間の、県の新たな道路中期計画に盛り込まれるよう、行政・民間・議会が一体となり、長井市と連携した早急な促進運動を展開する必要がある。

6月 定例会

定例会は6月5日から12日までの8日間で開催され、●平成29年度補正予算の専決 ●条例改正2件の専決を承認、●平成30年度補正予算 ●条例改正3件 ●米沢市との協定締結 ●町道の認定1件 ●工事請負契約1件・契約の一部変更1件について審議し、原案のとおり可決しました。また、●請願2件について、1件を継続審査、1件を不採択としました。

一般質問は1議員が行い、町政の事業について問いました。

町が抱える課題の解消を

町は、平成31年度に向け、18項目の重要事業を県に要望した。

主な要望事項

- 白鷹高等専修学校への支援の充実について
- 人口減少対策（移住・若者流出対策）に対する支援について
- 地域医療の確保について
- インバウンド着地型観光推進のための環境整備について
- 荻の窪地区農村地域防災減災事業の早期実施について
- 長井～白鷹間の西廻り幹線道路調査の早期着工について など

白鷹高等専修学校への支援の充実を

同校に対する補助金について、私立高等学校と同程度の支援を願う

特徴

- 高等学校卒業資格を得ることができる技能連携校
- 服飾などを専門科目とし、技能を身につけ、社会ですぐに活躍できる人材の育成

※第55回技能五輪全国大会
洋裁職種で金賞受賞者を輩出



高い技術の作品を展示（文化祭）

抱える課題

- 入学者は置賜全域に広がり、増加しているため教職員体制や教育環境の充実が必要
- 私立高等学校と比較して、私立学校一般補助金の額が大きく異なっている

補助金額のちがい

山形県私立学校補助金額（平成29年度）			
項目	私立高等学校分	高等専修学校分	
学校数割	7,277,000円/校	288,000円/校	
生徒数割	38,000円/人	22,800円/人	
専任教職員数割	3,260,000円/人	243,500円/人	
学級数割	192,000円/学級	—	

生徒一人当たりの補助単価（平成29年度当初予算）	
私立高等学校	365,934円
高等専修学校	71,914円

正算
補予

企業施設拡充 町有地売却予定

質疑

委員 解体に至った経緯は。解体費用は売却価格に含むのか。

当局 保管庫敷地に隣接する企業から、業務拡大等に伴い、敷地を譲り受けたいとの話があり、更地にして譲渡することとなった。

不動産鑑定士の評価はもらっているが、売却価格は未決定。今後、企業と協議していく。

機械保管庫なぜ解体

委員 機械保管庫はどうなるのか。

当局 まずは企業の要望に沿って解体を優先するが、保管庫は必要であり、整備について、今後、検討していく。

伝統工芸人材育成の効果は

委員 事業の内容と、町にとつてのメリットは。

当局 新規従事者に技術指導を行う事業主に対し支援する。

伝統工芸従事者の高齢化の抑制のほか、対象となる新規従事者は最長8年間町に住むことが条件のため、定住にもつながればありがたい。

保管庫の整備は既存の町有地を利用すべき。



解体を待つ機械保管庫

一般会計補正の主なもの

- 林業振興費（委託料及び工事請負費） 203万円**
町内企業の敷地拡充に対応するため、町所有の機械保管庫を解体するもの。
 - 林業成長産業化総合対策事業 1億3547万円**
白光園整備の木材利用等に対する補助内示を受け、民生費から農林水産業費へ組み替えるもの。
 - 伝統工芸文化人材育成事業 116万円**
伝統工芸の技術習得と伝承の人材確保を図るため支援するもの。
 - 企業立地促進事業 3000万円**
申請の増加見込みによる追加計上。
 - 町道維持補修費 1520万円**
町道の維持補修工事費等の追加計上。
◆中山針生線、追分味噌田線ほか
 - 小学校管理費（修繕料） 125万円**
蚕桑小学校、鮎貝小学校、東根小学校の施設修繕。
 - 文化交流センター費 93万円**
収蔵庫の改修等を行うもの。
 - 林業災害復旧事業 625万円**
融雪被害を受けた白鷹東部線の復旧対応。
など
- ◎ 財源は国、県支出金、繰越金などで対応します。

平成30年度補正予算総括表		
会計項目	補正額	補正後の額
一般会計	1億9021万円	85億21万円

※万円未満は端数を調整しています。

条例

●白鷹町町税条例等の一部改正

地方税法等の改正による町たばこ税の税率引き上げのほか、中小企業の生産性向上のため、一定要件を満たす機械等に対する固定資産税の特例措置を新設するなどの改正を行うもの。

●白鷹町コミュニティセンターの設置及び管理に関する条例の一部改正

十王地区コミュニティセンターの位置を変更するもの。



開館を待つ紅花の観光拠点施設

その他

●白鷹町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正

●白鷹町町税条例の一部改正（専決処分）

●白鷹町国民健康保険税条例の一部改正（専決処分）

請願

●大字浅立地内の町道路線の認定と道路整備について 継続審査

請願者 浅立区長 高橋弘夫（※）
南部4町内長 梅津 勝（※）

理由

さらに審査の必要があるため。

（※）この請願は、平成30年3月に提出されたため、前区長・前町内長名となっています。



審査を待つ生活道路

●種子法廃止に伴う万全の対策を求める請願

賛成少数のため 不採択

請願者 置賜農民連会長 小林茂樹
白鷹町農民連会長 川部忠弥

不採択の主な理由：県内の種子組合や農業団体からの請願がないのは、廃止に伴う影響は少ないから。

賛成討論：法の廃止による影響に様々な懸念の声があるが、具体的な対策が見えていない。楽観視せず、万全な対策を求めるといふ農家の思いを中央に届けることは、地方の議会として重要な役目である。

反対討論：なし

協定締結

●米沢市との定住自立圏形成協定の締結

置賜定住自立圏を形成するため、米沢市と協定を締結するもの。

【7頁に関連記事】

町道認定・廃止

●町道路線の認定

路線名 火葬場線
起 点 荒砥甲字中河原三1768-12
終 点 荒砥甲字中河原八2030-3

●町道路線の廃止

路線名 火葬場線
起 点 鮎貝字鮎貝堰四5945-19
終 点 荒砥甲字中河原八2030-3
※荒砥橋架け替えのため

契 約

●鮎貝中継ポンプ場移設（機械・電気）工事請負契約の締結

契約の方法 指名競争入札
契約金額 5832万円
契約の相手方 荏原実業株式会社東北営業所

●鮎貝中継ポンプ場移設（土木・建築）工事請負契約の一部変更

変更前 6954万5520円
変更後 7696万1880円



新たな交付金、地域に戸惑いは

町長 必要に応じ活性化のための支援を行う



菅原俊一 議員

◆地区コミセン◆

移行後の実績は

問 コミュニティセンター移行後の実績は。

町長 新たな事業も展開され、26年と29年の利用率を比較すると、件数で143%、人数で122%増となっている。

推進交付金、戸惑いも

問 創設された地域づくり推進交付金は対象事業が多岐にわたり、地区では戸惑いがある。

町長 財政的支援のほか、必要に応じて地域づくり事業の情報交換や研修の場などを作り、活性化のた

めの支援をしていく。

取組みの現状は

問 新交付金の使い道と、各地区の取組みの現状は。

企画政策課長 検討中かと思う。事業ごとに分割申請が可能で、件数は現在1件。

丁寧な説明を

問 丁寧な説明とサポートは尽くされたか。

企画政策課長 事務局の方々には制度設計から関わってもらい、予算可決後、センター長や経営主体会

長にも説明している。今後も事業立案について相談を受けながら対応していく。

情報の共有を

問 各コミセンの事業が地元以外に伝わらないが、各地区の取組みを知れば刺激になり力になる。町報などで紹介してはどうか。

企画政策課長

ホームページには毎月のセンター報は掲載しているが、他地区の活動は見る機会が少ない。提案を踏まえ、町報等を活用して各地区の活動なども分かるように取り組んでいく。

◆シラタカ・レッド◆

全国展開の方策は

問 全国に「日本の紅(あか)をつくる町」を広めるための方策は。

町長 町ホームページのほか、福島県をはじめ宮城県や新潟県など、近県向けのテレビ放映などで露出度を高め、誘客に取り組んでいく。

関連商品の展開は

問 2月発表のシラタカ・レッド関連商品の売れ行きと今後は。

商工観光課長

現在、目に見えた売り上げには至っていないが、今後、道の駅での販売や首都圏への展開も考えている。また、ふるさと納税返礼品としても検討している。

文字通りの拠点に

問 十王に完成した拠点施設には、歴史展示や体験コーナーなどを設けるべきと考えるが。

町長

紅花の歴史パネルや着物、本の展示、加工体験、教育旅行の受け入れなど、「日本の紅(あか)をつくる町」白鷹を体験できるような施設になることを大いに期待する。



鮎貝コミセンまつり



各コミセンの連携強化をはかれ！

総務厚生常任委員会

置賜全体で連携 定住を促進

6月7日に委員会が開催され、「定住自立圏形成協定」について説明を受けた。

生活機能を確保し定住へ

【定住自立圏の概要】

市町村が相互に役割分担し連携・協力することにより、必要な生活機能を確保する。

【圏域形成の手續き】

中心市の米沢市と、各市町がそれぞれ1対1で協定を締結する。

【連携する取り組み】

医療、交通、広域観光、米沢牛の振興など、14項目について取り組む予定。

今後、定住自立圏共生ビジョンを策定し、31年4月から事業を実施する予定。

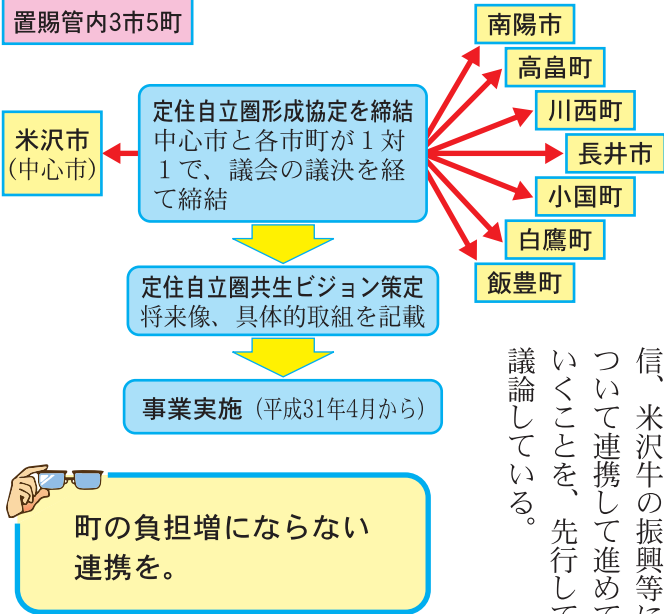
【財政支援】

中心市の米沢市には年間8500万円程度、その他の市町には、それぞれ1500万円を上限として特別交付税が措置される。

質疑

具体的な事業内容は委員 どのような事業を想定しているのか。

【当局】公立置賜総合病院への交通網の確保、米沢道の駅での情報発信、米沢牛の振興等について連携して進めていくことを、先行して議論している。



建物が完成、8月オープンへ

「日本の紅（あか）をつくる町推進拠点施設整備事業の状況」について説明を受け、現地を調査した。

紅花振興と地域の活性化へ

【施設整備の目的】

紅花や加工品の生産拡大、交流人口の増加、十王地区の活性化など。
（※施設は十王地区コミュニティセンターを兼ねる。）

【施設概要】

場所は、山狭体育館斜め隣り。木造平屋建て。

【事業費】

2億8542万円
（29年度分の整備事業費）

【今後の予定】

・外構工事（30年7月未まで）
・オープン式典（30年8月5日の予定）

現地調査



紅花生産日本一のPRのための施設に

質疑

指定管理業務はどうなる

【委員】他のコミセンと違う業務をするのか。

【当局】施設が大きくなる分、指定管理料は若干増える。事業面では、十王地区の中で取り組むものと、町と連携して取り組むものの両方が出てくる。

紅花体験観光施設としての利用推進を。

その他
○平成31年度白鷹町重要事業要望
○愛真こども園新園舎
○有限会社ケイエスしらたかの経営状況
について説明があった。

産建文教常任委員会

町の将来像 実効性のある計画を

6月8日に委員会が開催され、「都市計画マスタープランの策定」について説明を受けた。

策定から20年、社会情勢が大きく変化

【事業内容】

①社会情勢の変化、都市計画の進捗状況等を踏まえ、平成8年度に策定した町の都市計画に関する基本的な方針を見直す。

②土地利用状況を勘案し、用途地域の見直しを検討する。

③道路機能等を勘案し、都市計画道路の見直し方針をまとめる。

質疑

人口減少の影響は

委員 急激な人口減少から、将来的な行政サービスのコスト増が見えてくるが。



この景色、どう変わる



高齢者にやさしい町づくりを。

【当局】 各事業を実施するには、1ヘクタールあたり40人の人口密度が必要とされるが、基礎調査の結果では、本町は1ヘクタール30人程度であり、苦しい状況と言える。

【委員】 人口減少も踏まえ、町民の意見も取り入れるべき。

【当局】 策定検討委員会に、役場以外の外部の方が入る事は有効である。実のある組織体制を検討していく。

利用者の利便性向上

【事業概要】

東陽の里公園グラウンド南側に、利用者のための駐車場を整備する。
面積：3546㎡
駐車台数：普通車95台・大型車6台
事業予算：6498万円
財源：過疎対策事業債

質疑

安全対策は

委員 国道からの進入のための右折レーンを県に要望しているか。出入り口付近の植栽で見通しが悪くならないか。

【当局】 県からは、出入りが朝晩に限るため、右折レーンまでは必要ないのではとの意見を



冬期間も有効利用を。



駐車場予定地、交通安全対策は万全か

交通の安全対策も万全に

「東陽の里グラウンド駐車場整備事業の概要」について説明を受けた。

その他

- 農山漁村振興交付金事業
- アルカディア財団の経営状況
- 鮎貝中継ポンプ場移設の状況
- 町道路線の認定及び廃止
- 5月29日の降ひょう被害について説明があった。



ひょう被害に遭ったリンゴ

町民が利用したい施設に

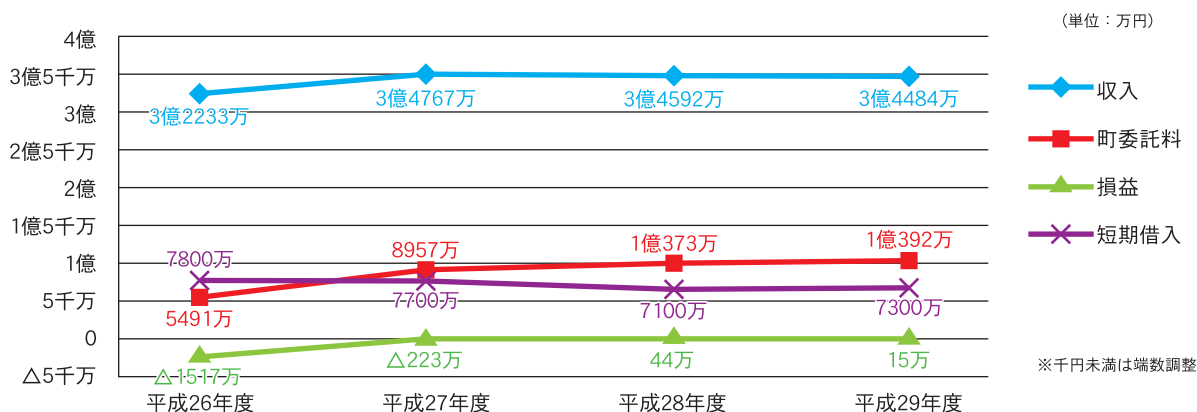
一般財団法人白鷹町アルカディア財団 理事長 横澤 浩

◆事業報告

- ・平成29年度は中期利益計画の最終年度であるとともに、財団設立30周年という節目の年であった。
- ・学校給食共同調理場の調理等業務を受託
- ・健康づくりサロン事業の取り組み
- ・夏のしらたかエクスカッション事業受託など

◆収支状況

新規受託事業により収益増加があったが、宿泊・飲食関連事業の収益減少により、經常収益は合計3億4484万円、経営費用は合計3億4461万円となり、当期損益は税引後15万円の黒字となった。
(※万円未満は端数調整しています。)



パレス松風その他、財団が管理運営している主な施設



もりもりハウス



白鷹スキーセンター



パークゴルフ場



源泉



学校給食共同調理場



町立病院売店



補修を待つ施設



- ・町民の健康増進を目的とした施設の役割を再認識するとともに、おもてなしの心を！
- ・町民が利用したいと思えるサービスを！
- ・利用者のクチコミPRを念頭に！

新たに公用車運転業務 職員1人増員も

―平成29年度事業報告―

(有)ケイエスしらか

代表取締役 藤島 丈

◆業務受注状況

- 白鷹町立病院
- 医療事務
- 事務宿日直
- 調理業務
- 電算保守等
- 訪問看護ステーション
- 医療事務
- 白鷹町総務課
- 公用車運転業務等

◆平成29年度決算

- ・事業収益 1億1113万円
- ・事業費用 1億1071万円
- ・当期純利 21万円

※万円未満は端数を調整

◆理事・職員数

- 理事2人（非常勤・無給）
- 職員32人
- ・病院医療事務員 15人
- ・電算管理 2人
- ・病院施設管理 4人
- ・病院調理師 8人
- ・訪問看護医療事務員 1人
- ・総務課運転手 2人



親切に対応（町立病院窓口）

読みたくなる誌面作りを

議会広報研修

5月31日、町村議会広報研修会が山形市で開催され、広報委員が出席し、議会だより編集の基礎を学びました。

講師は、議会広報サポーターの芳野政明氏。本町を含む県内16の町が実際に発行した議会広報誌を、評価や添削される形で講義が行われた。

「議会活動が町民に伝わるまでが、議会の役割」、さらに『読まれる広報誌』を目指し、思わず読みたくなる見出しの付け方などを学んだ。



山形県のレベルは高いとのこと

本町議会だよりのアンケートの取り組みと論評記事が高い評価を得た。

表紙

宿題おわったよ！

放課後児童クラブ

鮎っ子クラブ

鮎貝小の児童が通う放課後児童クラブ鮎っ子クラブ。午後3時過ぎ、この日も1年生から4年生までの約30人が、ランドセルを背負ったままやってきました。

早く来た子から黙々と宿題を終わらせ、みんなで仲良く、ブランコやトランプ遊びなどをしながら、お父さんやお母さんの帰りを待ちました。



まちづくり複合施設

来年5月の供用開始をめざして



《建築工事中の写真 6月12日撮影》



2mほどの段差がある



段差に対する町民への丁寧な説明を！



白鷹産木材をふんだんに



工 事 名	現在の工事（平成30年7月現在）	今後の予定
まちづくり複合施設建設工事	基礎コンクリート打設 構造体建て方	今年度中に完成
エネルギー棟建設工事		8月着工
書庫新築工事		9月着工
車庫新築工事	完成	
防災倉庫新築工事	完成	
現庁舎・中央公民館解体工事	設計中	来年6月着工
外構工事（駐車場等）		来年11月頃着工

— 白鷹の観光資源を再発見 —

⑤ 蚕桑の田んぼアート (6月～10月)

蚕桑駅から徒歩約5分、広大な水田地帯に現れた巨大な絵画。6種類の稲で描かれます。



⑥ 西山の乙女 (3月～4月)

春の浅い4月、残雪の西山に乙女の姿が現れました。ほかにも居るかも？



町内いろんなところから見えます。



発掘！町のビュー・スポット

① 針生のスイレン 気晴らしの池 (6月～8月)

赤やピンクの可愛らしい睡蓮が風に揺れる、気晴らしの池。白鷹山が水面に映ります。



② 最上川展望公園 (4月～11月)

豊かな土地を生んでくれた最上川。町を一望しながら、流れの歴史を想像します。



展望台



下山側入口

③ 白鷹夫婦観音 (4月～11月)

鮎貝の白山森に静かに立つ夫婦観音。婚姻成就、夫婦円満、子宝恵受を願い手を合わせます。



④ 山口のはす池 (7月～9月)

常福院、和居集沢、安楽院の蓮池。寒河江市慈恩寺由来の蓮が、身と心を清めてくれます。



追跡レポート

—あの事業は今?—

「伝統工芸の村」を検証

「伝統工芸の村」は、町の歴史文化遺産や美しい農村景観を後世に残していこうと整備された。昭和60年に「深山和紙振興研究センター」が建設され、その後個人が建てた「深山工房」を譲り受けた。「のどか村」は平成13年に建設した。この3施設は、深山区が指定管理者となり運営している。毎年秋には、鮎まつりと連携しての「しらたか工芸体験まつり」を開催し、好評を得ている。

【取り組み状況】



深山工房



深山和紙振興研究センター

町の観光3拠点のひとつとして「伝統工芸の村」が整備された。



深山和紙は風雨に強く、次第に白さと強靭さを増す性質。



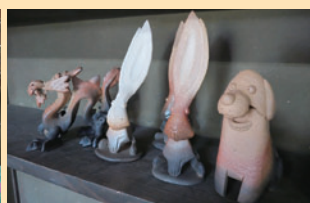
和紙すき体験のほか、和紙人形やブローチ、卒業証書など、新たな利用拡大がはかられている。



昭和36年に窯跡が発見された深山焼。花瓶や茶碗などのほか、さくらんぼの焼き物も作成。



昭和58年に登り窯を作成。東日本大震災で倒壊したため、平成25年に復活させた。



人気がある、陶芸体験や干支の置物。



のどか村

課題

施設については、深山区が指定管理者となっている。「深山和紙振興研究センター」には町から管理料が出るが、「深山工房」と「のどか村」には、町からはない。



- ・ 体験型観光拠点としての役割と伝統工芸の後継者の育成について、さらなる町の支援を！
- ・ 管理運営は利用料金をもってあてる状況では地区の負担になり、さらなる努力に頼らざるを得ないが限界ではないか？
- ・ 深山観音堂を含めた形での3施設の連携による集客と町外へのPRは、町主導での取り組みを！

深山観音（観音寺観音堂）



平成29年度政務活動費

全議員の使い道を公開



町のホームページで、各議員の収支報告書と領収書を公開しています。

各議員から提出された使途報告書に基づき公開します。

◎政務活動費は、年間60,000円が交付されます。

経 費	内 容
調査研究研修費	議員が行う調査研究に関する経費。議員が開催する研修会又は団体が開催する研修会へ参加するために要する経費。
資料購入作成費	議員が行う活動に必要な図書購入や作成に関する経費。
広報広聴費	議員が行う活動の報告又は広報に関する経費。
通信運搬事務費	議員が行う活動に必要な事務機器又は事務用品の購入並びに借上げなどの経費。
その他の経費	議員が行う活動に必要で、各項に規定する経費以外の経費。

(単位：円)

議員名	調査研究研修費 (例：セミナー受講料・研修旅費)	資料購入作成費 (例：新聞・地方議会人購読料・書籍)	広報広聴費 (例：議会報告印刷代)	通信運搬事務費 (例：プロバイダー接続1/2)	その他の経費	計 (うち政務活動費)
遠藤 幸一	38,200	70,716		7,380		116,296 (60,000)
渡部 善美		108,628				108,628 (60,000)
笹原 俊一		74,838	7,800			82,638 (60,000)
佐々木誠司	58,950	61,199				120,149 (60,000)
小口 尚司	38,200	113,097				151,297 (60,000)
小形 輝雄	38,200	73,006				111,206 (60,000)
田中 孝	58,950	47,584		7,380		113,914 (60,000)
山田 仁		21,104	73,440			94,544 (60,000)
奥山 勝吉	58,950	50,601				109,551 (60,000)
石川 重二		90,872				90,872 (60,000)
佐藤 京一	38,200	31,668		33,300		103,168 (60,000)
菅原 隆男	38,200	59,940				98,140 (60,000)
関 千鶴子		96,856				96,856 (60,000)
今野 正明		122,922	59,670			182,592 (60,000)

お手持ちのパソコンやスマホ等で議会中継をご覧いただけます。録画でもご覧いただけます。

議会だよりのご意見・ご感想などを議会事務局までお寄せください。



齋藤 聡 先生

病は気からはホントです！

シリーズ まちのドクター先生！

みんなを元気に！

… 過ぎたるは猶及ばざるが如し …

シリーズの5回目はみゆき整形外科クリニックの齋藤聡先生です。バイタリティーあふれる先生です。

プロフィール

宮城県生まれ。仙台二高から山形大学医学部を卒業後医師となり、南陽市立総合病院、市立酒田病院、上山総合療育訓練センター、県立河北病院などで勤務。アメリカにも留学しました。帰国後もほぼ1年ご

とに転勤を繰り返して、引越し業者にも頼られるほどでした。

増加する山大病院の患者を受け入れるため開設された蔵王みゆき病院へ勤務後、縁あって平成9年にみゆき整形外科クリニックを開業しました。

医者になるきっかけ

子どもの頃よく熱を出して、医者にかかるたびに、母から「医者はいいい職業だよ」と言われ続けその気になりました。小学生の時には医者になると決めました。

最近気になります

高齢化が進み、骨粗しょう症になる人が増えています。80代で4割が骨粗しょう症このデータもあります。子どもたちもケガをしやすくなっています。

過ぎたるは猶及ばざるが如し

「筋肉を付けないと寝たきりになる」と言うのは間違いです。筋肉は、常に運動している人も運動していない人も年齢と共に落ちていきます。運動のし過ぎはかえって弊害となり、ケガをしやすくなってしまうです。

体に悪影響のある活性酸素も、運動をし過ぎると溜まってしまいます。

医学の発達で「病は気から」というのが証明されてきました。ある研究では、乳がんの手術をした人の生存率が「前向きな人」が最も高く、「絶望の人」が最も低いという結果が出ました。私の患者さんも、前

向きな人はケガの治りが早いのです。

議会へ望むこと

今 後も、まじめに町を良くするための取り組みをお願いします。



町へ望むこと

看護師不足を解消するためにも、町内に看護学校を創設してはどうでしょうか。多くの若者が町に通い、活性化するのはないでしょうか。

取材を終えて

まさに「目からウロコ」の話をしたくさんお聞きしました。何事にも、前向きな心で過ごしたいものです。(笹原・佐々木)

編集後記

社会の高齢化に合わせるように、このところ、農業施設や公民館などの公共施設、住宅などの老朽化も目立つようになりました。人の営みを続けていくには、次の世代に地域がしっかりと受け継がなければならないと思います。それには人口流出への歯止めが必要です。それぞれの地域にはそれぞれの特色があり、まだ発掘されていない地域資源もたくさんあると思います。それらを再発見し、地域の人材とともにフル活用しながら、若い人たちが地元に残り、楽しく暮らせる地域づくりができることを願います。(佐々木)

広報委員

- 委員長 奥山 勝吉
- 副委員長・編集長 佐々木 誠司
- 委員 石川 重二
- 委員 笹原 俊一
- 委員 渡部 善美
- 印刷 (有)梅津印刷

